

神林地区 市長と住民の「こんだん会」
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～
開催報告

日 時：令和5年5月16日（火）午後6時～7時40分

場 所：神林公民館 大会議室

テーマ：「松本山雅FC支援を核とした地域づくり！」

内 容：神林山雅の会、神林商工親和会、ドリームワークス、J A神林支所女性部、神林町
会連合会の活動報告・懇談

参加者：20名（市長、出席者16名、傍聴者2名、センター長）

1 市長あいさつ

この住民とのこんだん会は昨年5月からスタートし、月に2、3回ずつ開催をしてきた、今日の神林地区で24回目になり、35地区の3分の2が終了したところ。今日のテーマの松本山雅というと3日前の信州ダービー、私も長野Uスタジアムに足を運び、パルセイロサポーターに囲まれながらアウェイ観戦してきた。衝撃の完敗から、まだ立ち直れてない雰囲気もちょっとあるが、次の鹿児島戦が一週間後にあるが、ちょうど本日の会を契機に、皆さんとともに、反転攻勢をかける何かのきっかけになればとの気持ちをもってきた。神林は、農業地域であり、スカイパークを中心としたスポーツ施設がある神林において、皆さんが取り組んでおられることを忌憚なく聞かせ願って、これから、皆さんとご一緒にどんなことをやっていけばいいかということを考える時間になればと思っている。どうかよろしく願います。



2 趣旨説明

今回の神林地区のテーマは、「松本山雅FC支援を核とした地域づくり！」。開催趣旨は、松本山雅FCのホーム「サンプロアルウィン」の所在地である「地元」として、「地区」をあげて松本山雅FCを応援・支援・交流をする中で、若者から高齢者までが集い、顔の見える関係をつくりあげていく、持続可能な取組み・仕組みづくりを考える。脱コロナ、コロナ禍から解放され、イベントなど4年ぶりに再開されている状況の中で、本日の「こんだん会」を契機として、お集りの皆様それぞれの支援活動を改めて連携、つながることによって、地区の絆づくりに貢献する、幅広い世代に神林地区をPRする事業をしてまいりたい、ということでテーマとした。

3 活動報告&意見交換

(1) 『神林山雅の会』(神林山雅の会 上原 章さん)

- ・アルウィンには、地籍が「神林」であることから、地区町会連合会として何か関連してできることはないか、立ち上げを検討。当時、自分が館報編集委員をしていた。
- ・平成24年の8月に、Jリーグ先進地として、アルビレックス新潟を視察。
- ・町会連合会が事業主体となり、長野県の「元気づくり支援金」の交付を受けながら、平成24年11月11日発足した。以来、工夫を凝らし、松本山雅FCのPR活動を行ってきた。
- ・オリジナルのぼり旗を作製し、ホーム試合当日に、山雅街道と呼んでいる市道6572号線沿線や、環状高家線沿いに会員に配布して、掲揚している。
- ・地域のスポーツ振興活動としては、地区内で募集をしたエスコートキッズ、運動会でのキックターゲット、サッカー教室、運動会やスポーツフェスティバルでの山雅タイアップイベントを実施してきた。
- ・また、社会奉仕活動としては、山雅応援Dayの試合観戦に合わせて、子どもから高齢者まで参加して、スタジアム周辺、高家線沿線などの清掃活動も実施した。
- ・地域の交流活動としては、山雅応援Day、リーグ戦キックオフ・ファイナル交流会の開催や、商工会協賛による「神林はうす」での身障者支援物品販売を行った。
- ・地域に山雅の会のPRをしようということで、毎月、神林山雅の会NEWSを発行して、山雅関連の情報を地区内に発信し、山雅応援の機運を醸成。



【市長コメント】

- ・子どもたちがエスコートキッズをやる機会を持てるということは、ここに住むことの一つの誇り、楽しみとして、ある意味特別な経験を積めることで、素晴らしいと思う。
- ・観戦に行く際にごみを拾ったり、スタジアム周辺の道路沿いの草を刈ったりされるということは、山雅に対しての地域の人たちの、サッカーで応援するという思いとまた別の形で地域のいろんな支えをしているということを重ね合わせてやれる、非常に皆

さんに広がっていけばいいなと思うような取組だと思って伺った。

- ・コロナもピリオドを迎え、ぜひとも皆さんの活動もコロナ前の、そしてお子さんたちもより楽しんで参加をしていただけるようなことに、何か松本市として支えることがあれば、センター長通じてリクエストいただきたい。

(2) 『神林はうす』(神林商工親和会 上原 良友さん)

- ・アルウィン建設前に、神林商工親和会の方で長野県に対して、売店施設設置要望の陳情を行ったところ、設計段階から盛り込んでいただき、建設にあわせて長野県が施設内にブースを設置して完成。
- ・平成13年5月のアルウィン開場から、神林商工親和会アルウィンブース店として、入場待機者の利便性向上のためジュースや菓子を販売。
- ・現在は、サンアル南売店「神林はうす」として運営。休憩コーナーもある。試合前の5、6時間前から賑わっている。
- ・ホームゲームの午前10時頃からキックオフ数分前まで営業。
- ・神林山雅の会のPR。
- ・先日、5月3日のFC大阪戦では、近隣の福祉施設であるドリームワークスさんと一緒に、タイアップして物資販売。
- ・夏には、売店前にシャワーミストを設置し、来場者サービスを行っている。
- ・平成13年以来、22年間の活動になるが、商工親和会も初めは、15軒以上商店があったが、現在は、営業している所は3軒くらいになってしまっているが、この「神林はうす」だけは、何とか持ちこたえてやっていきたい。



【市長コメント】

- ・商工親和会のメンバーが少なくなっている現状をお聞きしたが、ホームゲームの際はそのメンバーで営業を続けていられるということですか。⇒(上原) そうですね。
- ・メンバー以外にも関わっておられる方は？
⇒(上原) 基本的にメンバーのみで運営しているが、ほかに、ドリームワークスさん、JAさんなどにも出品いただいて活動している。
- ・アルウィン建設当初からあるというこの建物を、存じ上げなかったが、この拠点を山雅ホームゲームの時には守り続けるということが、神林において商業に関わってこられた方々の灯として、是非、がんばって続けていただきたいなあという気持ちを今思いました。
- ・物品の販売以外にも、皆さんの取組が、アルウィンに集まって来る皆さんの目にとまって、ホームゲームのある時は神林の皆さんが、何かここで集中させて、やっていけ

るような場所として、魅力を持ち続けていただきたいと思いました。

(3) 『スマイル山雅農業プロジェクト』（ドリームワークス 小野澤 ハレルさん）

- ・環状高家線沿いセブンイレブンさんの南側にある、ログハウスの建物が事業所。
- ・平成 17 年 10 月に建てられたが、私は平成 19 年の 5 月からお世話になっている。
- ・法人名 社会福祉法人長野県知的障害者育成会
- ・多機能型福祉サービス事業所（生活介護・就労継続支援 B 型）
- ・現在利用者は、生活介護が 25 名、就労継続支援 B 型が 9 名。職員は、16 名。
- ・どんなに障害が重たくとも、一人の人間として、地域の中で豊かに尊厳を持って暮らせる場所であることを大切にしている。
- ・アート、音楽、ウォーキング、旅行、お菓子作り、資源回収受託作業などの活動。
- ・スマイル山雅農業プロジェクトという、山雅ホームタウン活動へ 2018 年 6 月の当初から参加協力してきた。
- ・青大豆「あやみどり」の畑管理、収穫、選別、在庫管理の作業を担っている。
- ・昨年、令和 4 年 6 月 11 日のあやみどり種まきの様子。
飯田真輝 CB²とレディース U-15 の選手 24 名、小林陽介監督が参加。農事組合法人サウス、神林町会連合会、神林山雅の会、サポーターの皆様とご一緒に作業。
- ・プロジェクトでは他に、U-15 レディースの皆さんと、11 月に収穫した豆を使用して、食育の一環として味噌作りを実施（令和 5 年 3 月 5 日）。
- ・昨年度は、990 kg の大豆を収穫でき、松本市、安曇野市の全保育園にあやみどりが食育ということで届けられた。
- ・あやみどりを使用した、ガン豆くん、ガン豆くんクッキーの紹介。



- ・ガン豆くんクッキーは喫茶山雅でも販売されており、飯田店でも人気商品。
- ・ガン豆くん等の売上げは、利用者工賃と松本山雅ユースの活動資金となっている。
- ・このプロジェクトに参加することで、地域とのつながりを持ち、社会の一員として一緒に大豆作りに参加できることは、共生社会の一つのあり方だと思う。
- ・松本山雅 FC のプロジェクト担当者の方から初めてお話をうかがった時に、重度の障害もつドリームワークスのメンバーがどんな役割を担えるかが心配でしたが、まずはできることをやろうと職員とも話、できないところは参加される方々のお力をお借り

してプロジェクトに携わってきた。

- ・ 神林地域の方、松本山雅レディース、サポーター、神林山雅の会、農業法人サウスの方々と一子に種をまき、真夏の暑い日に草を抜いて、収穫して、選別したクッキーが「松本山雅FC公式ガン豆くんクッキー」として市場に出せたことは、事業所として大きな喜びでもあり、励みでもある。
- ・ この神林という地に温かく迎えていただいていたことに改めて感謝したい。これからも多くの方の力をお借りしながら、重い障害があっても地域の中で暮らし、社会の一員として役割を果たせるドリームワークスでありたい。

【市長コメント】

- ・ お菓子作りで、福祉施設で作ったものだから買ってもらうのではなく、おいしいからまた買いたいなどと思ってもらえるようなものを作りたいし、作らなくてはいけないというお話があった。農業と福祉の連携、つながりというのは、施設の中だけではなく、地域とつながりを持つという中で、食べるものを作っていくことに関わるといことは、障害を持っている皆さん、それを支えている皆さんにとっても、一番何かこう、原点のようなもので、それがうまくつながっていくと豊かさというものが実現できる一つの道筋だなあと思ってお話を伺いました。
- ・ 先ほどの神林はうすなどで、是非大勢の方々の目に止まったり、手に渡ったりすることが、これからも続いていくよう願う。
- ・ そのためにも、山雅がやっぱりハブになって、子どもたちの世代にも、山雅に関わることがサッカーだけではないということにもなっている姿ですので、それをこの神林から、また全市的にもものになっていけばいいと感じました。
- ・ ⇒（小野澤）最後にすみません。神林山雅の会の皆さんから「神林の地元のお菓子を何か欲しい」というお話の中で、福應寺の法燈国師さんのことを教えていただき、この度、「信州みそガレット」という商品を開発しました。この度、「東京銀座長野」で販売されております。これからも、地域からアイデアも気持ちもいただいて、頑張っていきます。

(4) 『軽トラマルシェ』（JA松本ハイランド神林支所 鈴木 美和さん）

- ・ JA松本ハイランドはオフィシャルスポンサー。農産物で松本山雅FCを応援。
- ・ 地元農産物のおいしさなどを、スポーツを通じてPRすることで、農業の大切さ、地域との交流を深めている。
- ・ 農業への理解を深めるための食育及び教育文化活動の一例として、松本山雅U-18の皆さんを対象に、農事組合法人サウスのご協力を得て、アルウィン近くに田んぼ「山雅田」で、田植えから収穫までのコメ作りを行っている。今年は、5月21日に田植えを実施予定。
- ・ 地域、組合員の皆さんとの更なる関係強化ということで、地域の催事では、「がんばれ神林大収穫祭」を開催。コロナで3年間実施できていないが、平成元年度の収穫で

では、ガン豆くんに来ていただき、子どもたちと餅つき大会など活動を実施。

- ・ J A松本ハイランド女性部では、活動の重点活動項目である「食」「農」「健」を守る運動として取り組みを実施している。地産地消運動、自給率向上運動を自ら実践するとともに、生産者と消費者をつなぐ活動を展開。
- ・ 女性部神林支部は、令和4年度現在ですが、部員数は56名。支部長は三島幸子さんで日頃の活動の中心になっていただいている。
- ・ 「軽トラマルシェ」は、(株)松本山雅から、地元農産物の販売要請を受けて、ホームゲームの協賛イベントとして、令和2年からアルウィン芝生広場で開催。
- ・ 令和2年は10月10日と11月1日。令和3年は9月26日と10月24日。令和4年は9月25日と10月15日に実施。3年経過したところ。
- ・ 収穫時期の農産物中心の販売なので秋に開催している。
- ・ 女性部神林支部の有志が、軽トラックの荷台に新鮮な地元野菜、果物などの農産物を積み込み、軽トラ市ののぼり旗を掲げて、地産地消を呼びかけながら販売。
- ・ サポーターの皆さんにお声がけ、交流しながら販売ということで、生産者が消費者と直にふれあう機会となり、楽しみとなっている。
- ・ ある日の販売風景では、地元農産物を味わおうと、開始直後からサポーターが列となって、旬の梨やブドウなどが、やはり人気で、開始30分程度で売り切れてしまうものもあるなど、にぎわいをみせた。
- ・ サポーターの皆さんからは、旬のぶどうなど、食べながら観戦をしたいね、などのご好評をいただいている。



- ・ アルウィンがある、地元神林地区などで育てた野菜や果物をサポーターの方々に知ってもらいよききっかけとなった。
- ・ 販売の様子を紹介。地元朝どりのブロッコリー、神林特産のパプリカ、ズッキーニ、セロリ、キャベツ、里芋など、売れ筋をみながら、多種多様な品目を販売。
- ・ ぶどうは、赤いクイーンニーナ、紫色のナガノパープル、緑のシャインマスカットと彩りよく3種類を一つのパックに入れて販売したものが人気があった。
- ・ これからも、松本市の神林産を中心に、自慢の農産物を通じて、松本山雅FCをこれからも応援させていただく。

【市長コメント】

- ・旬の採れたて野菜やぶどうなど果物が、この軽トラマルシェで提供されていて、また、女性部の皆さんもお揃いのユニフォームで楽しみながら販売されている様子、松本山雅が起点となり、神林の一番の魅力を知ってもらおう活動となっている。
- ・松本は、農業では県内で最も大きな出荷額を誇る都市ですし、その中でも今井とか神林の農業の魅力を、もちろん消費者にも伝えたいですが、若い世代が農業に携わるといふ部分で、いろいろなチャンネルを通じて、農業の生計を立てられて、そしてなおかつ仕事と暮らして、いろんなバランスのとれた生き方を、松本で農業をするということに感じてもらえるようにすることが、私たちがしなきゃいけないなど思っている農政の柱であるが、そういうものにつながる一端として、山雅のアルウィン芝生広場での軽トラマルシェというものも、いろんな人にここで採れるおいしい果物や野菜、そしてそれが食と農と健康につながっていく、だからこそまた農業にチャレンジしてみたいと思うような人にメッセージが伝わればいいなと思いました。

(5) 『神林町会連合会』（前連合会長 渡辺 賢夫さん）

- ・令和 3、4 年度の神林地区町会連合会長、令和 4 年度は松本市町会連合会副会長として、いろいろな場で勉強になり、有意義な一年間を過ごさせていただいた。
- ・当初、このこんだん会は、令和 4 年度に開催を予定しておったところ、予定がずれ込んでこの時期となった事情で、昨年度会長の私からお話しさせていただく。
- ・神林人口 4,784 人、2,028 世帯、7 町会。農村地帯。
- ・長野県には「信濃の国」という県歌があるが、神林には「神林の歌」がある。
- ・「神林の歌」の一節に“七区の契り 暖かく”と唄われているように、和を重んじ協調性のある風土。
- ・地区の南端にサンプロアルウィン、信州スカイパーク、マレットゴルフ場、室内ゲートボール場、西南公園があり、スポーツエリアが形成され、健康づくり、仲間づくりの場となっている。特に、信州まつもと空港を含めてあの一帯がシンボルとなる誇れる地域だと思う。
- ・平成 28 年 3 月に改訂した「神林みんなの幸せ計画」では、『共に支えあい、安全で安心して、生き生きと暮らせる神林』を基本理念として、5 つからなる基本目標を掲げている。
- ・基本目標の一つに「絆を深める地域・町会活動の推進」があり、その実施方針の一つを「地域を活性化し、絆を深める活動の推進」としている。
- ・その実施方針の実施内容が、今回のテーマである、「松本山雅の応援・支援を核とした地域づくり（世代を超えた、顔の見える地域づくり活動の推進）」として進めてきたところである。
- ・しかし、令和 3 年、4 年とコロナが拡大して、なかなか人が集まる活動ができないという中で、令和 5 年度に向う、令和 5 年 1 月の新年の祝賀式を 3 年ぶりに開催。その町会役員お揃いの場で、活動が停滞気味であった平成 29 年 1 月に設立された「神林

みんなの幸せ計画推進会議」について組織の再編成を提案。

- ・ 地区内関係団体 17 団体の代表者によって構成される、「神林地区まちづくり協議会」を令和 5 年 3 月に設立。
- ・ 関係団体の横串を通した、新たな緩やかな協議体として、相互連携を図り事業実施の協議検討を行っている。
- ・ 令和 2 年度は、松本市地域づくり推進交付金を活用して、のぼり旗（山雅街道、山雅の里）の更新をして、80 枚作製。地区内の沿道、ごみステーション、イベント時に活用。
- ・ 特に神林の中心を通る市道 6572 号線を「山雅街道」と呼んで、沿線上の各家庭の前に、のぼり旗を掲揚して盛り上げている。
- ・ 地区をあげて松本山雅 FC を支援する姿勢を PR することで、地区事業に関心がないような住民に対して、興味を持っていただけるきっかけづくりとなることを期待。



- ・ 先ほどドリームワークスさんでもお話がありました、スマイル山雅農業プロジェクトには、農事組合法人サウスさんのご協力を得まして、春の播種から秋の収穫まで、関係者の皆様とご一緒に町会連合会も参加協力させていただいている。
- ・ 神林地区では、昔は、運動会を開催していたが、近年は 9 月の第 1 日曜に「神林スポーツフェスティバル」を運動広場と体育館を会場にして開催。
- ・ ニュースポーツや体力測定の体験と、山雅グッズを景品に抽選会を行って、住民自由参加型スポーツイベントで、子どもから大人まで、幅広い世代が参加、交流できる地区行事となっている。

令和元年度 神林スポーツフェスティバル

日時 **9月1日(日)午前8時30分開場**

会場 **神林体育館・神林農村広場**

松本山雅FC 鎌戸アンバサダー、ガンズくん参加決定!

神林農村広場

- ウォーキングサッカー
- キックターゲット
- ストラックアウト
- 消火器的倒し

神林体育館
(上履きを用意してね!)

- ポッチャ
- 体力測定
- スポーツ吹き矢
- カローリング

10時30分から松本山雅FCグッズが当たる抽選会を実施!

5名様

選手サイン入り Mフラッグ

1名様

選手サイン入り 2019 松本山雅 FC ユニフォーム

5名様

タオルマフラー

他にもサイン入りボールなど豪華景品多数用意!!

スタンプラリーカードの番号に注目!!

プログラム

ウォーキングサッカー
松本山雅FCによる体験会!
子供でも、大人でも、サッカー未経験者でも楽しむことができる!

ポッチャ
東京2020・オリンピック正式種目!
目標の白いボールに近づけよう!!

キックターゲット
サッカーボールで狙った的にシュート!
高得点の的に多く入るかな??
高得点で景品 GET!!

体力測定
現在の自分の体力を確認してみよう!!
・筋力測定 ・立ち上がりテスト
・両脚片足立ち ・上体起こし
・腹筋体前屈測定

ストラックアウト
投球のコントロールを競うゲーム!
ハネをめがけて投球!
高得点で景品 GET!

スポーツ吹き矢
離れたのめがけて、矢をはなて!
健康増進にも効果あり!
高得点で景品 GET!

消火器的倒し
いざ火災が起きたら!?
放水始め!
上手の的に当たるかな?

カローリング
コートの先端にあるポイントゾーンに向け、シャトルローラーを交互に走行してぶつけ合い、得点を競うゲーム。

スタンプラリー種目 ☀️ 晴天時に行う種目 ☁️ 雨天時に行う種目

当日のスケジュール

会場	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	
農村広場		ウォーキングサッカー	キックターゲット	ストラックアウト	消火器的倒し	11時30分イベント終了
	体育館		ポッチャ	体力測定	スポーツ吹き矢	
			カローリング			
			福屋ひろば 雨天のみ	わなげ・ラダーゲッター・スカットボール		

- ・また、アルウィンのある地元町会として、ホームゲームの際は、迷惑駐車など駐車場が問題となる。川東町会では、山雅さんから要請を受けて山雅FCオフィシャル駐車場として、akippa川東Aとakippa川東Bの2か所で、山雅ホームゲーム開催に協力している。個人宅でもシステムに登録して、軒先駐車に協力しているお宅もある。
- ・ゲームのある日、大勢のサポーターの皆さんがアルウィンに向かって歩いていく姿というのは、わくわくするような賑わいがでて、非常にいい光景だな見て感じている。
- ・私の近所でもお年寄り夫婦がそろって観戦に行く姿もかなり多く見られて、やはり地区で賑やかなイベントが開催されるというのは、地元を盛り上げるのにいい感じだなと思っている。
- ・神林の集落からスタジアムに向うには、山雅街道を歩き、アルウィンからみて東北の側に、寺家という信号の交差点、ここに横断歩道がある。それと、アルウィンの西北の側に、アルウィン入口という信号があって横断歩道がある。サポーターの皆さんが西南公園方面から歩いてアルウィンへ入るためには、どうしても、この離れた2か所の横断歩道を渡らなくではならず、スタジアムの入口近くで道路を横断してしまうような状況が散見される。
- ・環状高家線は4車線化される計画で進められている。4車線になると道路幅も広がり、ここを横断するとなると危険を伴うことになる。将来的には、できれば歩道橋を設置していただいて、アルウィンの敷地と西南公園の中を直結する形になればよいかなと思っている。
- ・スポーツを介して地域発展を図るため、スポーツイベントできる場所が地域の中にあるというのは、非常に良い環境であると思う。地域住民としても松本山雅を応援しながら、盛り上がっていかればよいかなと思っている。

【市長コメント】

- ・「神林の歌」というのは、いつごろできたのですか。
⇒（渡辺）大正10年ですかね。CDは市制100周年記念に作製した。
- ・なかなか、珍しいのではないかと。
⇒（渡辺）最近、イベント時には皆で歌おうよということにしている。
- ・一大スポーツエリアという、松本市の中でこれだけの、スカイパークをはじめとしてアルウィンもそうですが、スポーツ施設、エリアが広がっているということは、改めてその価値を松本市全体で受け止めていただきたいなとも思いますし、また、令和10年度には国スポということで、陸上競技場の新設が進むと、またさらにこの地域にとっての、「農業」とならんで「スポーツ」というものが、大きな地域の資産であり魅力になっていくというふうに感じます。
- ・スポーツフェスティバルというのがありましたが、かつての運動会をいろいろな形で今、地区ごとでやっているところ、やっていないところとありますが、コロナで中断したりしてましたけども、それをまた復活してやろうというところが、こんだん会で地区を回ってもお話をお聞きする機会が増えている。すごくじつはこれが、子どもからお年寄りまで、年に一度、今の時代に合った、若い世代にとっても、子育て世代の家族にとっても楽しめるような運動会をつくろうとしている皆さんの取組もすでに出ていますが、もっともっと運動会というものを、地域のまちづくりのアイテムとして、ぜひ活用していただきたいなとか、そうするチャンスが今大きくあるんじゃないかと、いろんな皆さんと話しながら感じている。
- ・この神林で行われているような取組も、いろんなまだやっていない地域の皆さんにも是非ご紹介をしてというか、具体的にどんなことをやっているのかを、映像とか動画とかみたいなもので、地域の魅力として発信していけば、松本市内でこんな新しい形のことをやっているんだとか、自分のところでも参考にして、自分の地区らしいものをやろうということにつながっていけばなあと思いながらお話を伺った。
- ・駐車場の話は、軒先パーキングという言葉で地元の方々が取り組まれていて、全体として違法駐車、迷惑駐車にならないような状況がつくられているというふうに、改めて知ることができた。
- ・駐車場から若い人たちが、子どもの手をつれていく家族が、歩いていく光景というのが、日常の農村部には無い光景として、定期的に目にすることができる、というのはここに住んでいる皆さんにとって非常にこう温かな気持ちに、そしてまた、この地域を持続可能なものにしていけるという手応えとともに感じられることだろうなというふうに思いました。
- ・あらためて、アルウィンがあり、アルウィンに集う人たちとともに、神林という地域がこれからも継続発展していく、そのためには欠かせない存在であるというのを感じました。

4 フリートーク

・(J A松本ハイランド神林支所 丸山所長)

ドリームワークスさんの中で、山雅というものがハブになるとおっしゃられていました。私もまさしくそのとおりだと思ひまして、山雅というものが、横のつながりの起点になればいいなというふうに思っておりまして、その横のつながりのうち、農協の起点となっているのは、女性部です。この女性部の熱気というのは、すごいものがありまして、特に神林支部の女性部は、すごい力が、パワーがありまして、圧倒されるものでございます。

そこで、百聞は一見に如かずではないんですが、できれば、9月24日か10月15日に、山雅の試合を是非観に来ていただければ、そこで女性部のパワーをみることでございますので、圧倒されますので。ぜひ、市長さんに来ていただければ、との要望でございます。

・(臥雲市長)

ホームゲームは、今できるだけ時間がある日は観に行くようにしています、ぜひこのどちらかの日に、軽トラマルシェに伺って、買い物をしたいと思ひます。今日は秘書広報室長もおりますので、日程を押さえてもらうようにします。

・(上條 温 市議会議員)

それぞれ発表がありましたように、アルウインの住所が、神林 5300 番地だということを知った時から、これを起点に神林のまとまりと経済に、何とか結び付けられないかなあと思っていました。

本日お見えですが、赤羽先生が自然発生的に、神林の中央を走る道にホームゲームの時に、旗が出たんですね、それがひとつのきっかけになって神林山雅の会ができたんです。私は、旗を作った時に、ホームゲームの時の旗を立てる係を決めようかと思ひていたところ、会の皆さんから、自然発生的に旗を立てた方が力になるよと言われまして、ちょっと感動して、係決めを止めたんですね。そして実際、ホームゲームの日は自然発生的に旗が立ってくるんですよ。旗を預かった人がみんな、自主的に立てると。こういうのが、力なんだろうなというように感じました。

ただ、山雅の成績が落ちるにしたがって、ちょっと熱意が下がっているのが残念でして、それとコロナも残念であります。

ドリームワークスさんが神林にあると、山雅を一つのキーにしてクッキーを作っている、味噌クッキーとか、味噌作りがありました、発表にありましたように、味噌も偶然ではないんですよ。鎌倉時代の高僧で、中国から日本へ、味噌づくりと醤油づくりを伝えた法燈国師の生誕の地が、神林の福應寺なんです。ドリームワークスさんが味噌クッキーに法燈国師の名前を使いたいと福應寺さんをお願いしたところ、こころよく応じていただいたのが、ひとつのつながりなっているというので、地域のつながりをうれしく思った感じ次第です。

また、ドリームワークスさんは、施設の拡張を願っておりまして、隣地の地権者は

提供してもよいといってくれていますが、農地なんです、青地です。それで、一言申し上げて申し訳ありませんが、農地の流動化についてお願いしているのは、具体的にはその隣地の件とスーパーの件です。スーパーの方は、市長さんから命令していただいて庁内で検討いただき方向性が見えつつありますが、そういうところを何とかできないかと常々思っています。

もう一点要望で申し訳ないが、山雅をキーにしていろんな方面から神林の力を集約してやっている。地域づくりセンターの機能強化、人的、予算的支援をやっていますが、山雅を横串に通して、産業とか、人とか頑張ってるので、是非、神林も検討の中に入れていただきたいとお願いします。

・(臥雲市長)

市街化調整区域、農業用地の用途の弾力化、自由化ということは、今の松本のまちづくりにとって、きわめて優先順位の高い問題だと思って、いろんな形で、庁内で私の立場でいうと壁を壊す作業を、まだちょっとなかなか皆さんのご期待からすると隔靴搔痒の感もあるかと思いますが、このことは、松本という、元々はお城周辺から始まったこの街が、これだけ大きく都市になって、その都市には35のそれぞれの特色があり、一時期コンパクトシティという言葉が、人口減少であればもう仕方がない、それに向かうしかないという時期がちょっとありました、いま改めてそれが、非現実的で、もちろん中心市街地を再生するということもその部分で必要ですし、一方でやっぱり松本的には35あるそれぞれの地区の歴史に根付いた、まちとしての存続、発展という観点を市民の皆さんと共にしっかりコンセンサスとして持って行って、そしてそれに合わないルールは私たちで変えていくんだということで、何とか今の話も前に進めていきたいと思っています。

今回のスーパーの話は、上條議員からのご要望を受けて、農政部門と都市計画部門が、それぞれ変えることに対して後ろ向きな状況というのを、ようやく一緒になってやろう、やらなきゃいけないんだ、というところまでもってこれたと思っています。ですので、神林でいえば今度はそのドリームワークスの話も、しっかりテーブルにのせて、どういう方策をとれるのか、そのためにはどうやって例えば、最終的な権限を持っている県に対して、我々がどういう働きかけをして、ルールを変えるということにもっていくのか、ということをして是非、議会の皆さんと共に、進めていきたいと思っています。

もう一点、上條議員のお話の中での、「係を決めない」ということこそが、実はその取組を本当に地に足がついたものにしていく、息の長いものにしていくためには、やはり必要で、また、そのことができる地域とできない地域、あるいはできるような地域にするためには、どうしていけばいいのかということが、きわめて今、問われているんだなと思います。郊外の農村部も中心市街地も、共通して若い世代の参加がまちづくり、地域づくりに上手く巻き込めてないということが、課題としてあって、それをどう巻き込むためには、大切にすべきことと、何か少し変えるべきものというものをちゃんと見極めてやっていく必要があるなと思っています。神林でいえばこの山

雅という若い人たちを巻き込む、非常に貴重な資源を有しておられるので、そのことを通じて係を決めなくても皆が自分事として実行していくという住民自治の原点というようなものが、積み重ねられ、引き継がれていくということを期待したいなと思います。

先ほどから多様なご要望をいただいておりますが、それこそ今度は、上條「議長」でありますので、本当に緊密に、連携、ご協議を重ねさせていただいて、物事を、皆さんのご要望を実現する、そういう行政を進めていきたいなと思っています。

5 全体講評（臥雲市長）

今日は、1時間半に渡って皆さんの取組をお聞かせいただきました。その中に、私たちが、もっともっと取り組まなければいけない大切な観点や、ヒントをいただきました。

最後に、上條議員からのお話にもありましたが、私は自分の一番市長として、本懐に据えているのが、松本の地域の多様性を、特性をできるだけ活かす都市政策、行政ということを行っていきたいということが一つ大きくございます。

18年前に波田や梓川や、今の一番大きな松本市の市町村合併があって、その合併をする時に実は一番当時の方々が心がけたことが、ひとつの松本をしっかりとつくるということだったと思います。ひとつの松本をつくるためには、できるだけ、違ったルールを一本化をして、そしてその同じ原則の元にまちづくりをするということが、その段階では必要なことだったのだろうと思います。

それが一定程度できた先に、もう一度我々が思いをいたすべきなのは、先ほどの神林の歌ということにも象徴されるような、あるいは、ここにはアルウィンがあるということが象徴されるような、それぞれの、かつての村の単位、あるいは地域の単位ごとの強みや課題というものに、しっかりと向き合って、できるだけそれに即したルールづくりや仕組みづくりということに今は、軸足を移していてもいいんじゃないかなというふうに思って、地域拠点の強化ということを掲げて、段階的ではありますがけれども進めているところです。

地域づくりセンターの強化ということも、今年で3年目で、モデル地域的な取組をしてきましたが、この3年の成果を踏まえて来年以降はもっと全般として、35地区全体で地域拠点の強化、地域の特性が活かせる市役所の体制というものに進んでいきたいと思っています。

今日は、24回目のこんだん会に参加させていただきましたが、今申し上げたことを常に胸に刻んで取り組んでまいりたいと思いますし、そのためには、今皆様方が取り組まれている住民自治を、更に力強く進めていただくことと両輪でなければいけないと思いますので、どうか、コロナがピリオドを打ったと、今こそ、この3年のいろいろなものを前に進めていこうとやってまいりたいと思っていますので、どうかよろしく願いいたします。本日は、ありがとうございました。

(閉 会)